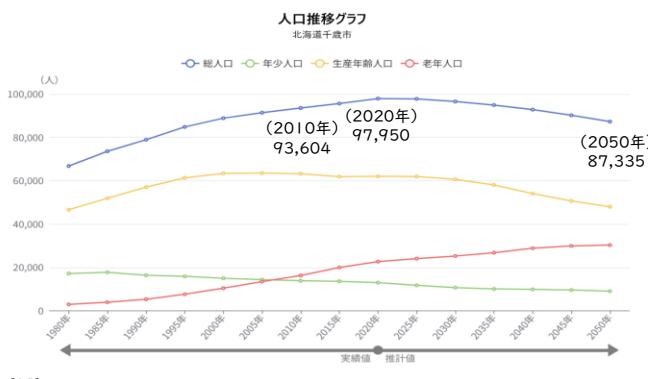


RESAS

を分析してみよう

北海道 千歳市

人口



* 人口マップ→人口構成分析→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。
2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。
老年人口の割合をみると、2020年の23.16%から
2050年には34.69%まで増加する。また、生産年齢
人口は2020年の63.36%から54.96%まで減少
する見込みである。

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。
データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

<https://resas.go.jp>

RESAS

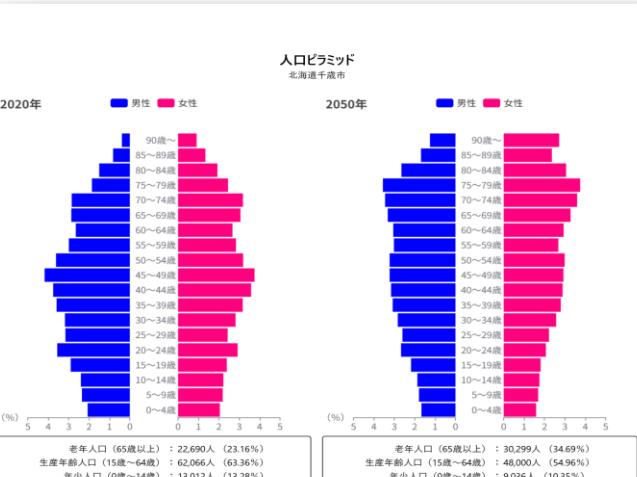


年齢別人口推移

2020年の人口は総人口97,950人。10年前(2010年)の93,604人と比較すると4.6%増加しているが、2020年をピークとして、2050年にかけては減少傾向に転ずることが見込まれている。

また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口はゆるやかな増加傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向である。
よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。



* 人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合
2020年 年度 年末

昼間人口: 88,875人
夜間人口: 84,938人
(昼夜間人口比率: 104.64%)



【出典】
総務省「国勢調査」

【注記】

総務省「国勢調査」における居住地は、就業者または通学者が就業・通学している従業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出した人口をもつ。

算出方法は「地域に居住する人口」+「地域から通勤者又は通学者として算出する人口」+「その他の通勤者又は通学者として算出する人口」。

テレワーク勤務に際しては、就業上どちらかテレワーク勤務が半分未満の場合には勤め先の所在地が就業地となるため、「通出人口」「通入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合には勤め先の就業地とするため、「通出人口」「通入人口」に含まれない。

就業勤務のみ、就学の学校に通っている者も便宜上昼間就業者・夜間通学者とみなしして昼間人口に含めている。貨物客などの非常的な移動については考慮していない。

夜間人口：この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり(15歳以上)の昼間人口(15歳以上)の割合であり、100を超えるときは通勤・通学人口の流入超過、100未満のときは流出超過を示す。

「平成22年国勢調査」による都道府県別で、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県那須木市（那須木市、西芳町）、岩舟町、壬生町、川口町（川口市、神谷市）、東加茂郡守屋町（守屋町、一色町、古谷町、及び藤田町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

滞在人口 (2020年)

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。

千歳市の昼間人口は88,875人、夜間人口は84,938人である。昼夜間人口比率104.64%と、通勤・通学等での人口流入が多いことがわかる。昼夜共に滞在人口の中で、もっとも多い居住地は千歳市である。

※15歳以上の人口を対象として算出している。

流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合
2020年 北海道 千歳市
運動機能を有する者で見る
総数
流入者数: 14,922人
流出者数: 11,030人
(流入超過数: 3,892人)

流入者数



流出者数



【出典】
総務省「国勢調査」

【注記】

通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者のい。

ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が就業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を就業地とすため、通勤者には含まれない。

この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数には、特別な区間および同じ令和指定都市下の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていません。

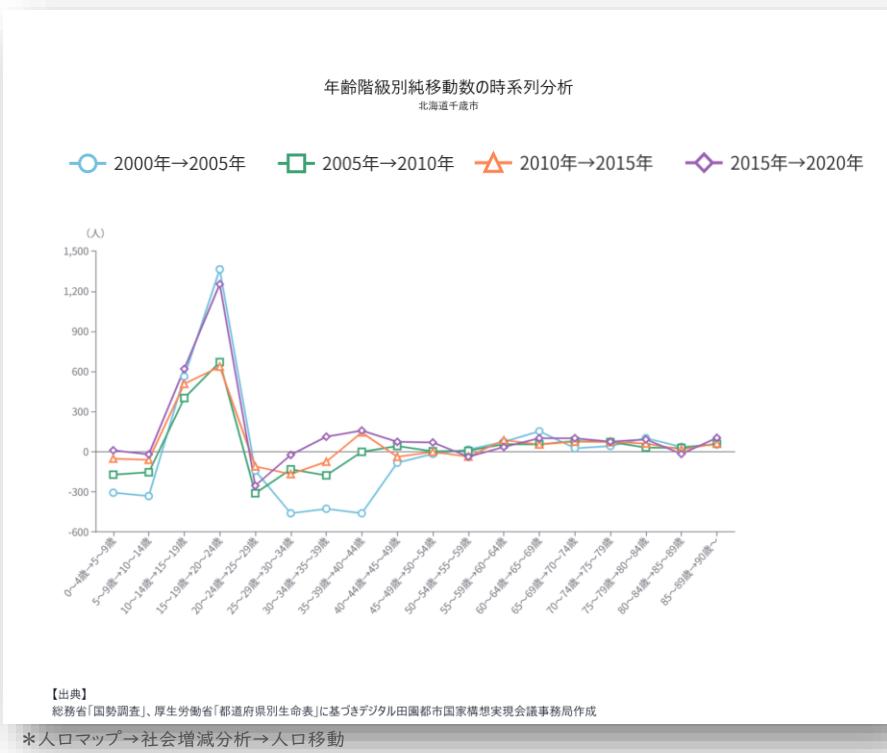
「平成22年国勢調査」による都道府県別で、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県那須木市（那須木市、西芳町）、岩舟町、壬生町、川口町（川口市、神谷市）、東加茂郡守屋町（守屋町、一色町、古谷町、及び藤田町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

人口

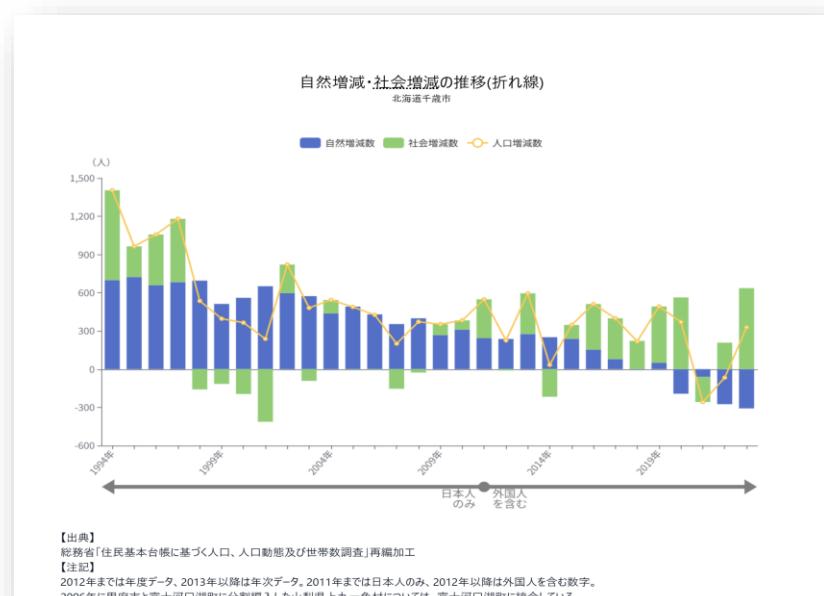
年齢階級別純移動数時系列分析

年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)に人口が流入し、就職時(20~24歳→25~29歳)から中齢層にかけて移動があり、中高齢層にかけて移動数が減少する定住傾向が強い地域であると考えられる。



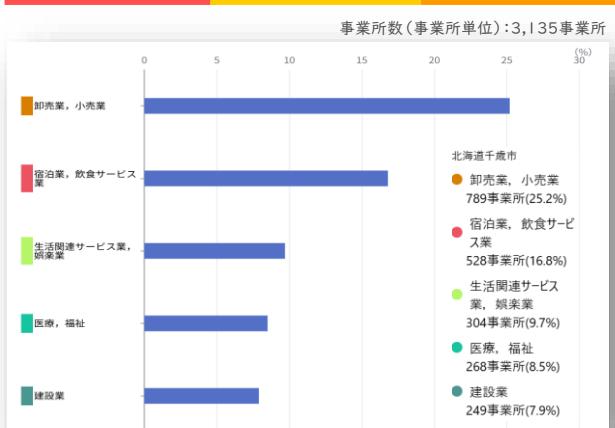
自然増減・社会増減の推移

自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。近年、千歳市は、2021年はコロナという外生ショックで社会増が弱まり、一時的に人口減となつたが、空港・産業・立地を背景とした社会増が、自然減を上回り続けている。

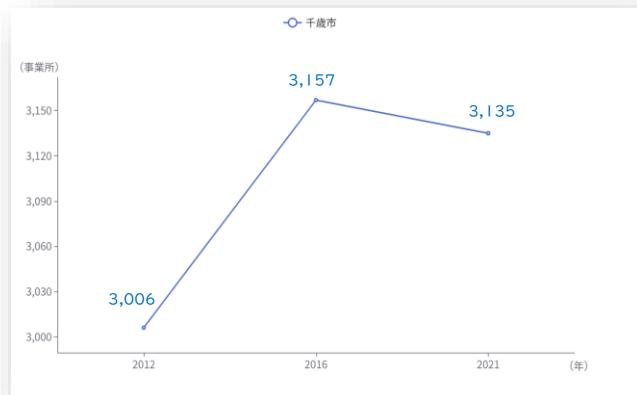


*人口マップ→人口増減分析→グラフ

産業構造



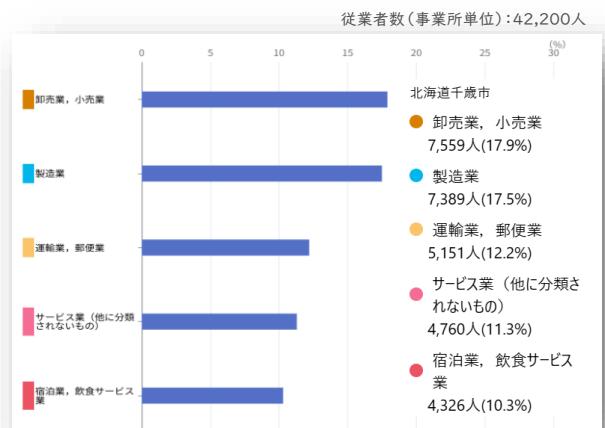
*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

事業所数(事業所単位)大分類(2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の789事業所で、全体の25.2%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の528事業所の16.8%が続く。



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)

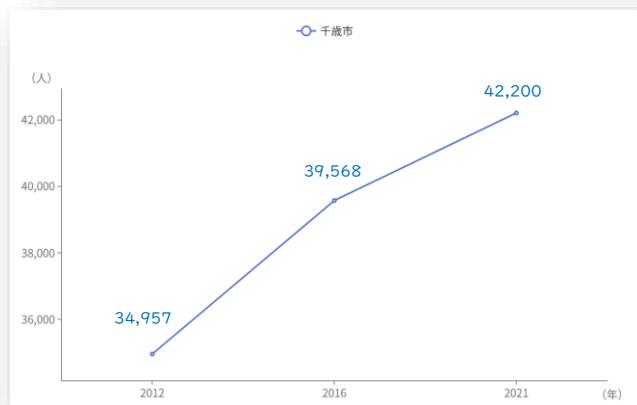
従業者数(2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっと多いのは「卸売業、小売業」の7,559人で、全体の17.9%を占めている。その後「製造業」の7,389人の17.5%が続く。

事業所数の推移(2021年)

事業所数の推移を見る。

2021年は3,135事業所であり、5年前の2016年は3,157事業所だったので、比較すると0.7%減少している。

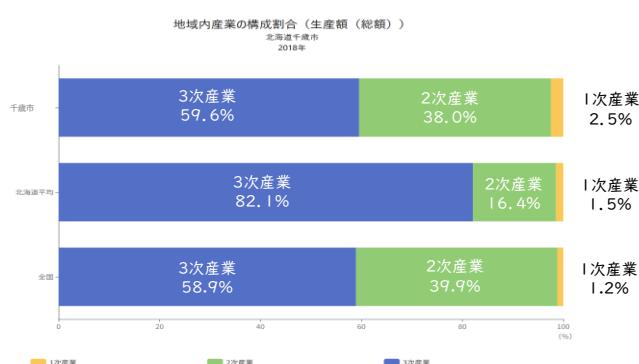


*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数の推移(2021年)

従業者数の推移を見る。

2021年は42,200人、5年前の2016年は39,568人だったので、比較すると6.7%増加している。また、2012年と比較すると20.7%増加している。



*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

地域内産業の構成割合(2018年)

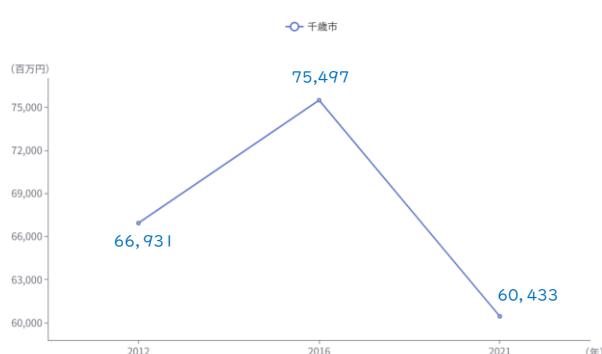
千歳市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および北海道と比較したグラフである。3次産業の割合が59.6%であり、全国よりわずかに高く、北海道平均と比べて低い。一方、2次産業の割合は38.0%と全国よりわずかに低く、北海道平均に比べて高い。

*1次産業…農業、林業、漁業など

*2次産業…製造業、建設業、工業など

*3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



*産業構造マップ→産業構造→推移

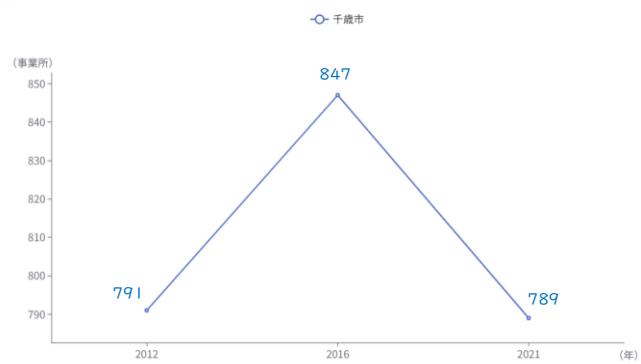
売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は60,433百万円である。9年前の2012年と比較する66,931百万円なので、9.7%減である。

2012年から2016年の売上高の増加は、空港旅客数の増加による消費機会の増加、物流・流通拠点としての稼働増など要因として考えられる。また、2016から2021年の売上高の減少は、コロナによる人流(旅客・観光・出張)の崩落などが要因として考えられる。

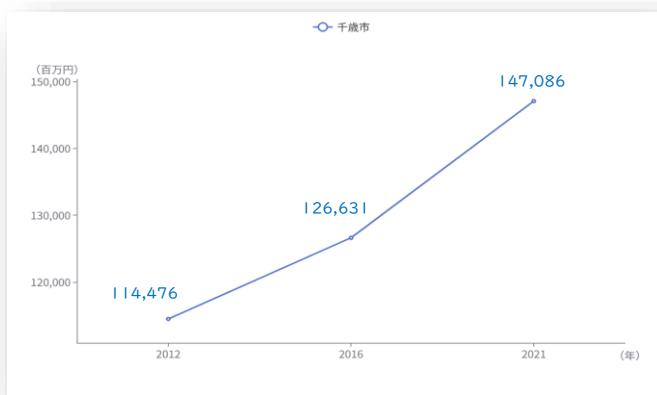
事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は789事業所、2016年は847事業所であり、2016年と比較すると、6.8%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



*産業構造マップ→産業構造→推移

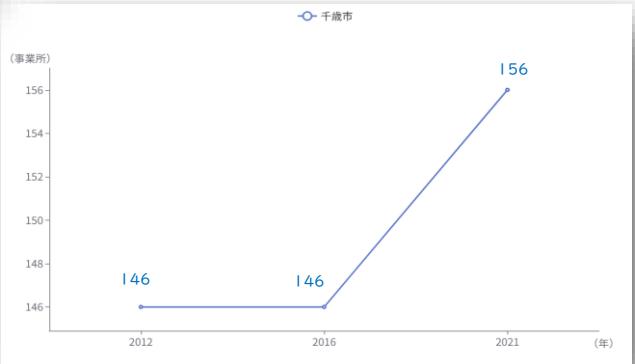
売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、147,086百万円である。9年前の2012年と比較すると114,476百万円なので、28.5%増である。

売上高の増加は、「千歳臨空工業団地」等を背景に多様な業種が立地していることで製造業の集積が進み(新規立地・増産・設備投資)、出荷額が伸びやすかったなどが要因として考えられる。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は156事業所、2016年は146事業所であり、2016年と比較すると、6.8%増となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。千歳市では、「製造業」の付加価値額がもっとも大きく、「医療・福祉」、「建設業」の順に続く。

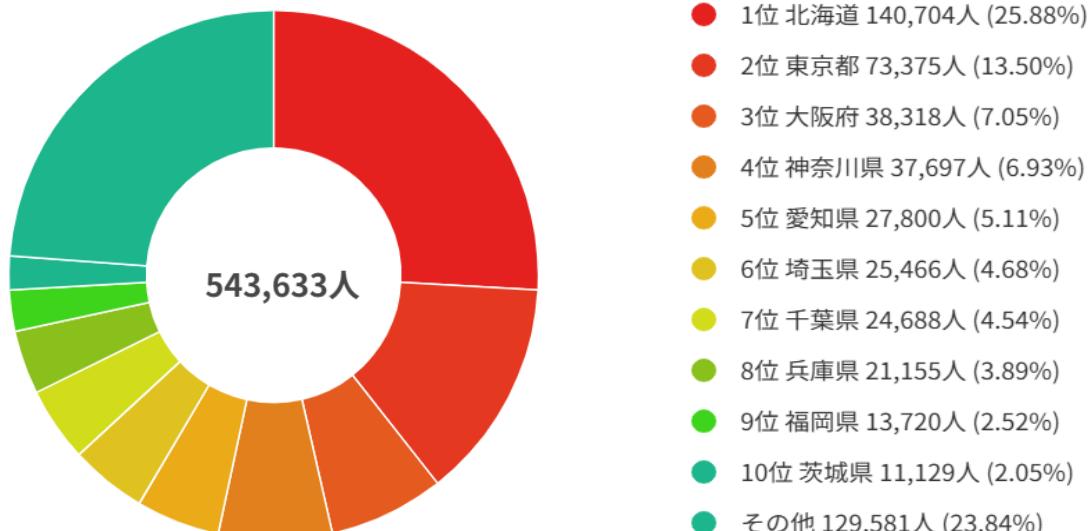


*地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。北海道25.88%ともっとも多く、東京都の13.50%、大阪府の7.05%が続く。

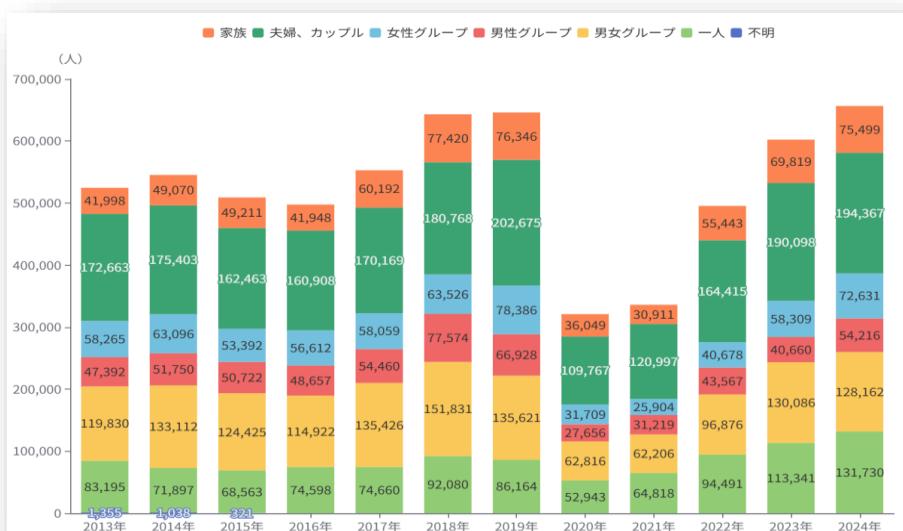


*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっと多いのは、「夫婦、カップル」の194,367人、その後、「一人」の131,730人、「男女グループ」の128,162人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行：千歳商工会議所

〒066-8558 北海道千歳市東雲町3-2-6

TEL: 0123-23-2175 FAX: 0123-22-2122

URL: <https://www.chitose-cci.or.jp/>

